

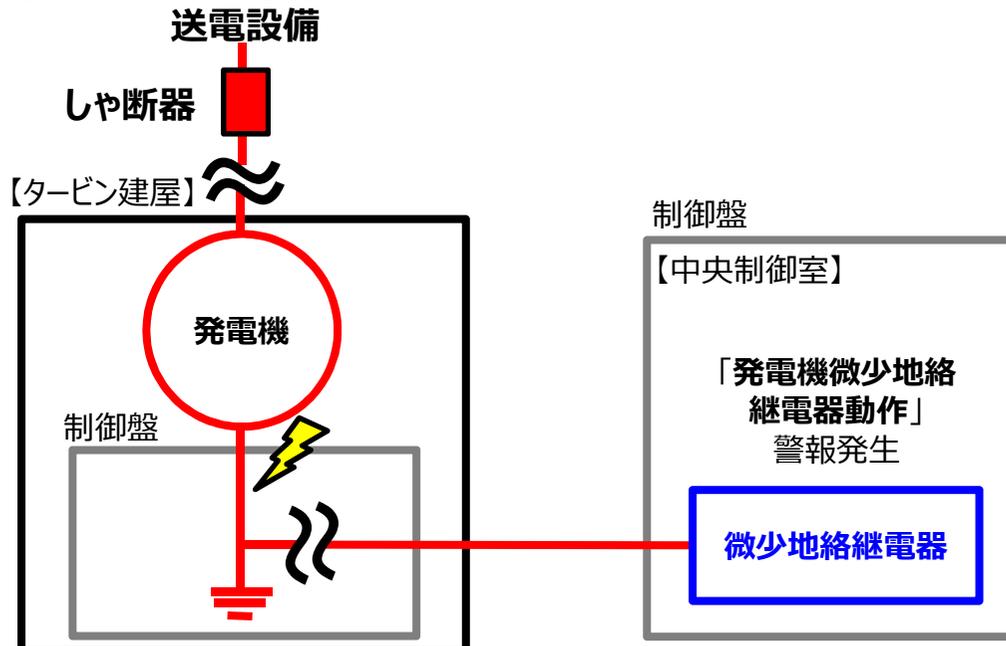
6号機 発電機微小地絡継電器動作 警報発生について

【事象の概要】

- 3月12日 午後4時頃、発電機から微少な地絡（電気が本来の回路から地面へ漏れる現象）を示す警報が発生（中央制御室にて発報）。プラントパラメータや発電機出力に有意な変動はないため、運転したまま調査を開始
- その後、警報発生時の手順どおり、発電機関連のパラメータ、微小地絡継電器※の状態、制御盤周りを確認するも、原因特定に至らず
- 安全を確保したうえで、詳細に調査を行う必要があることから、本日午後6時25分に、発電機を送電系統から切り離す発電機解列を判断
- 送電系統からの切り離しに伴い、原子炉出力を約20%まで下降させるが、原子炉を停止するものではない

※ 地絡の兆候を早期に検知するための装置（警報のみ）

（警報が発生した場合のイメージ図）

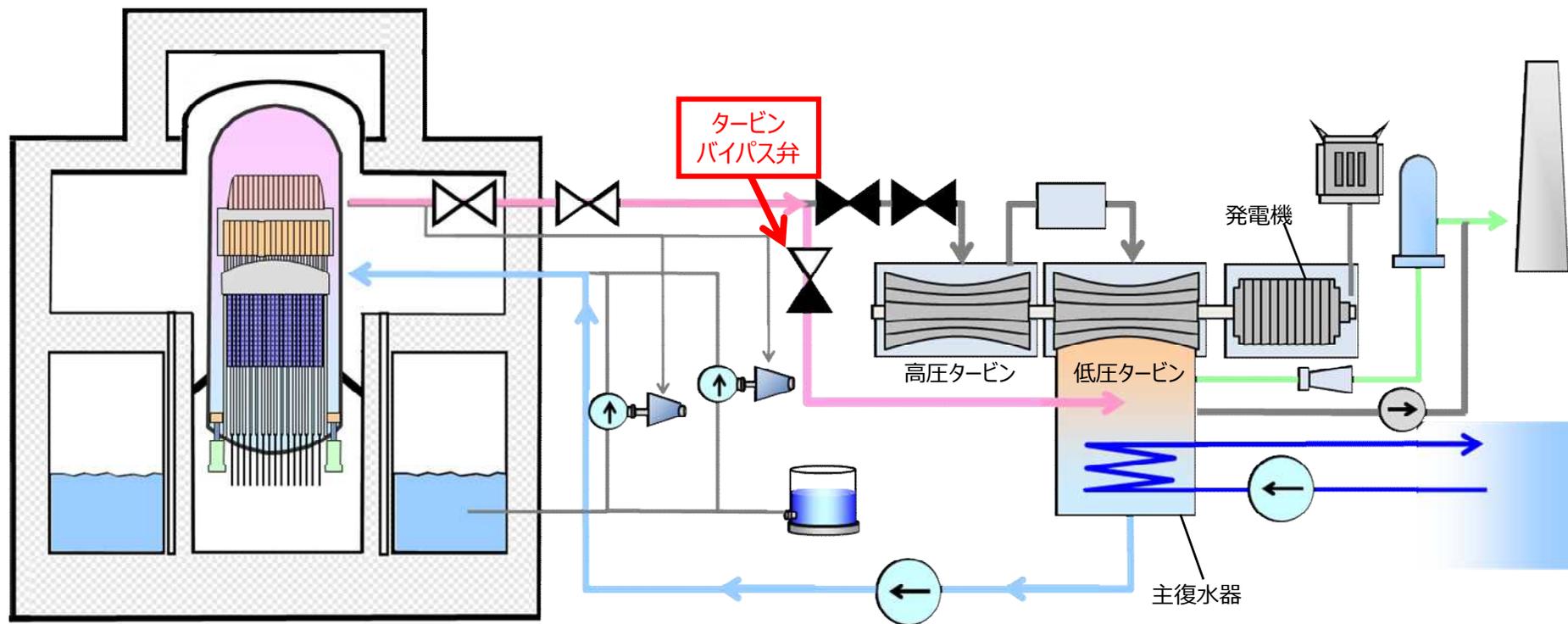


（発電機写真）



(参考) 原子炉の状態

- 発電機の調査を実施するため、制御棒を一部挿入し、原子炉の熱出力を100%から20%へ下げる
(原子炉圧力を約7MPaから約6.6MPaへ下げる)
- その後、発電機を送電系統から切り離し(発電機解列)、タービンを停止
- 原子炉内の蒸気は、タービンバイパス弁を介して、直接、主復水器へ送る



「開」…弁を開け、蒸気や水が流れる状態
「閉」…弁を閉め、流れを止める状態
「調整開」…流れる量を調整しながら開けている状態